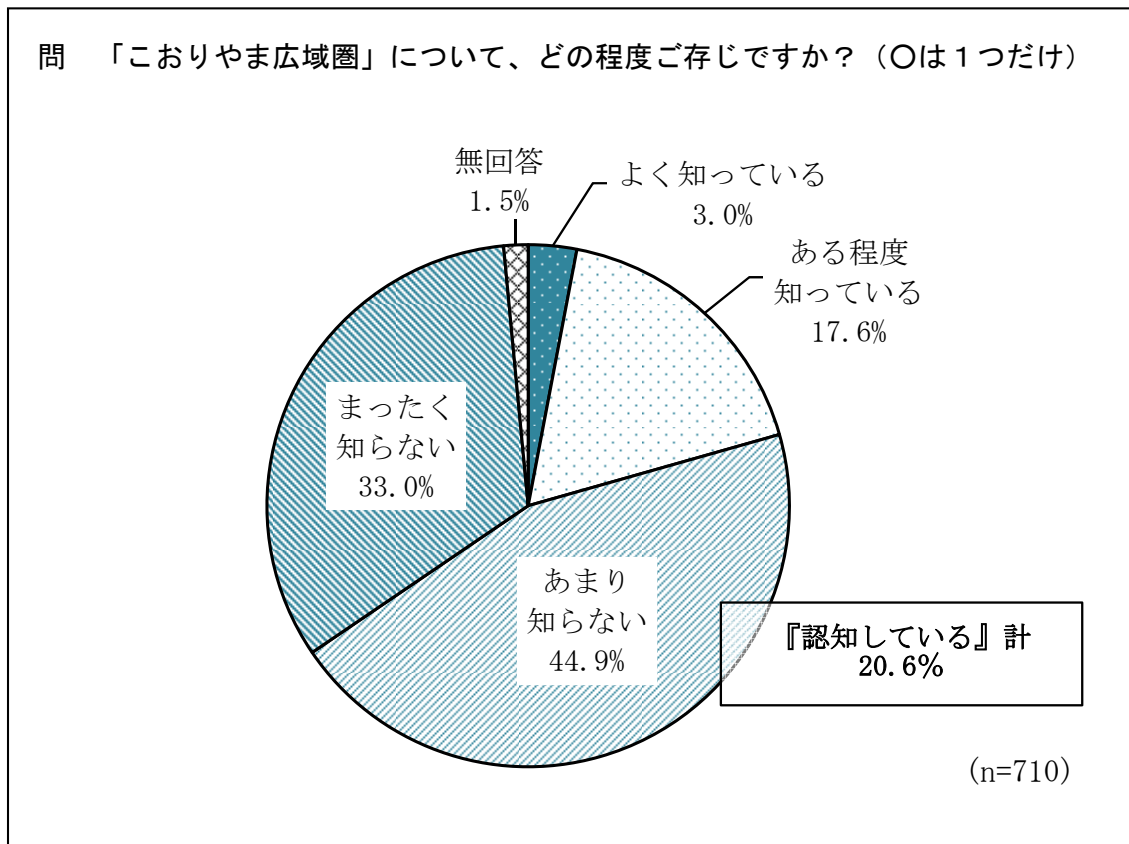


3. 連携中枢都市圏について

(1) こおりやま広域圏の認知状況



————— こおりやま広域圏を認知している市民は2割 —————

【全体結果】

こおりやま広域圏の認知状況については「よく知っている」(3.0%)、「ある程度知っている」(17.6%)で両者を合計した『認知している』計(20.6%)は約2割にとどまっています。

一方、「あまり知らない」(44.9%)と「まったく知らない」(33.0%)を合計した『認知していない』計は8割弱(77.9%)を占めています。

「こおりやま広域圏」は、2018年度中の形成に向け、関係14市町村とともに手続きを進めている段階であり、今後、住民の皆様には具体的な取組などを周知していく必要があります。

【属性別結果】(図3-1 参照)

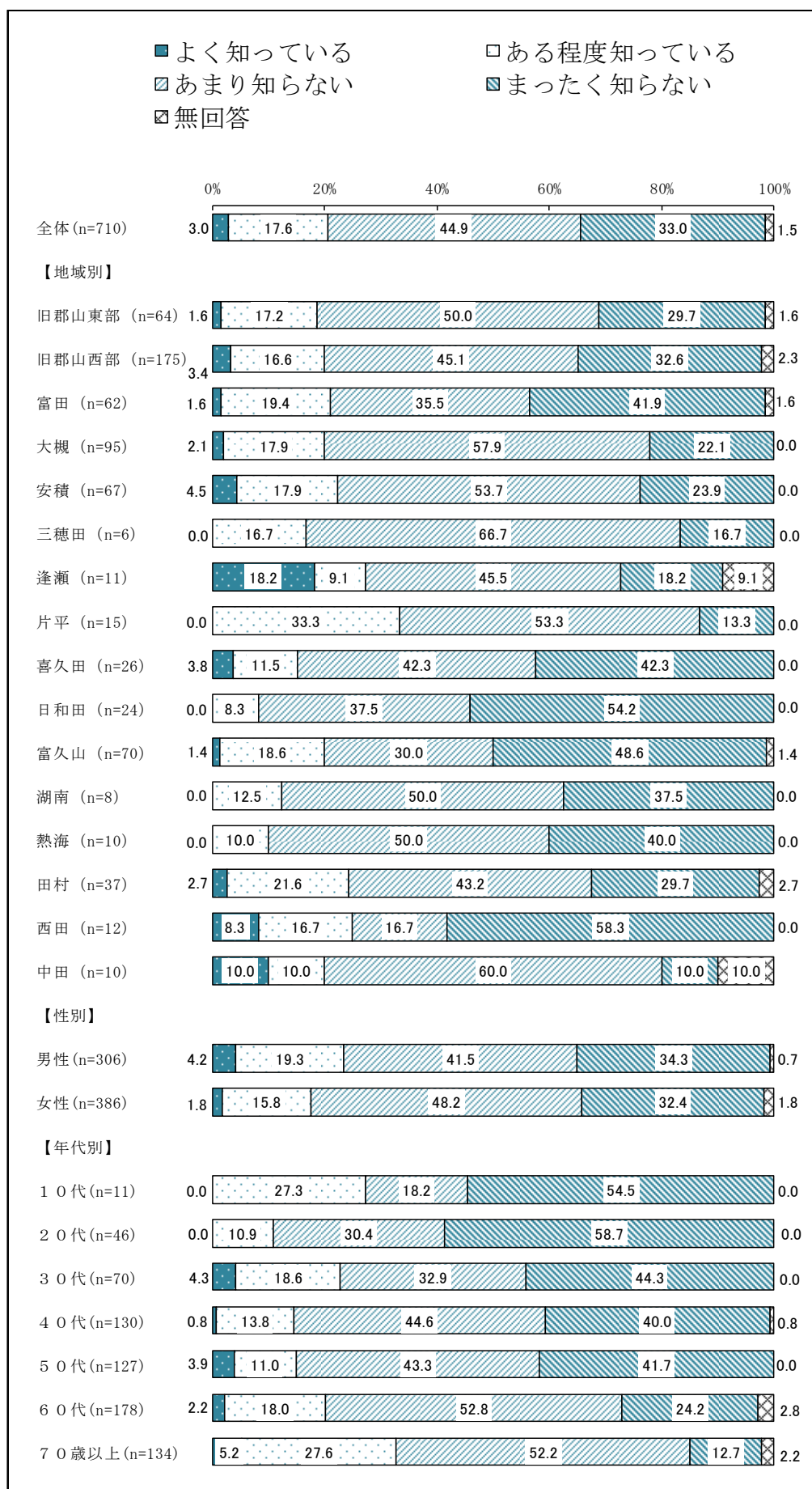
①性別

『認知している』計の割合は、男性(23.5%)の方が女性(17.6%)よりもやや高くなっています。

②年代別

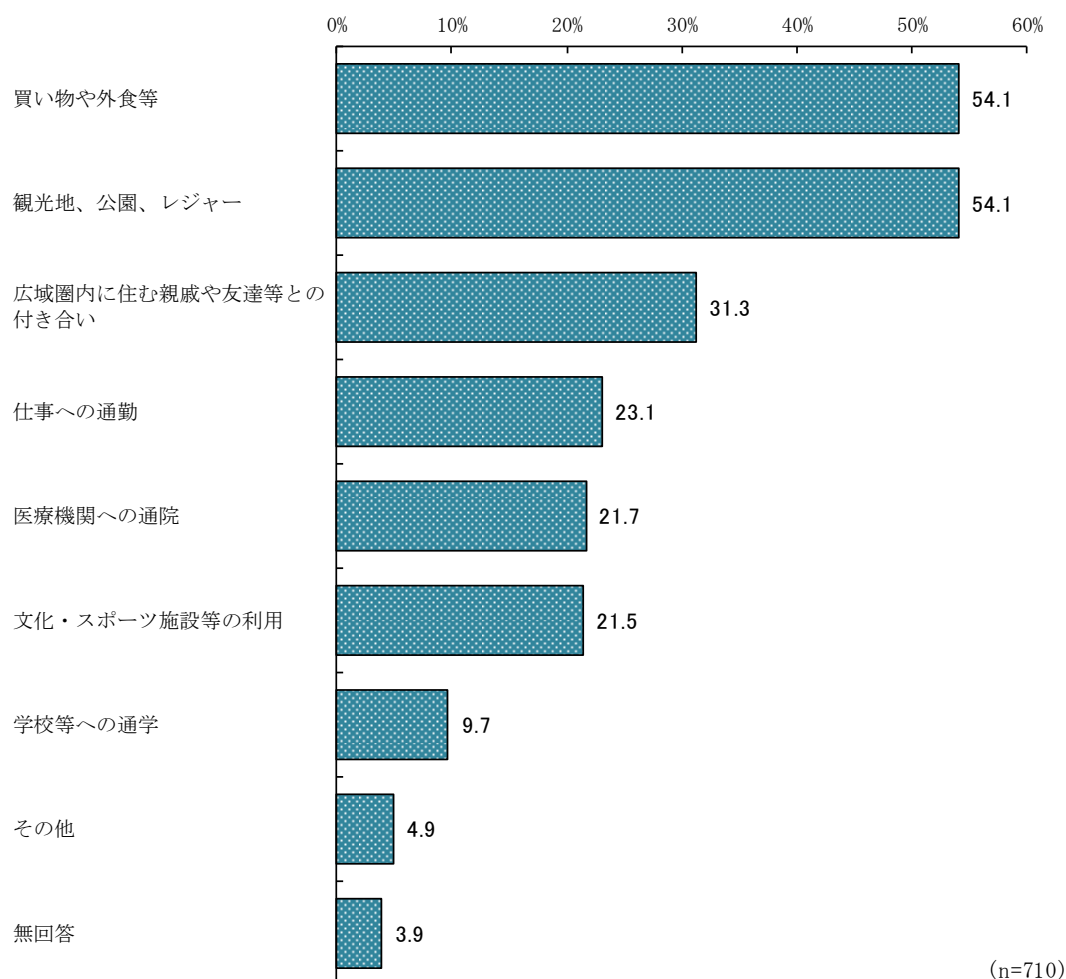
『認知している』計の割合は、70歳以上(32.8%)で最も高くなっています。一方で、最も低いのは20代(10.9%)でした。

図 3-1 こおりやま広域圏の認知状況（地域別／性別／年代別）



（２）こおりやま広域圏と関わる場面

問 こおりやま広域圏の１４市町村とは、どのような機会に関わることが多いですか？（○はいくつでも）



こおりやま広域圏と関わる場面が最も多いのは

『買い物や外食等』と『観光地、公園、レジャー』

【全体結果】

「買い物や外食等」と「観光地、公園、レジャー」（ともに 54.1%）の割合が最も高くなっています。以下、「広域圏内に住む親戚や友達等との付き合い」（31.3%）、「仕事への通勤」（23.1%）の順で続いています。

生活圏、経済圏をともしする本圏域において、買い物やレジャーといった余暇活動における交流が多くなっています。

【属性別結果】（図 3-2 参照）

①性別

「買い物や外食等」の割合は、女性（59.3％）の方が男性（48.0％）よりも高くなっています。

②年代別

「観光地、公園、レジャー」の割合は、30代（67.1％）で最も高く、70歳以上（45.5％）が最も低くなっています。

図 3-2 こおりやま広域圏と関わる場面①（地域別／性別／年代別）



図 3-2 こおりやま広域圏と関わる場面②（地域別／性別／年代別）

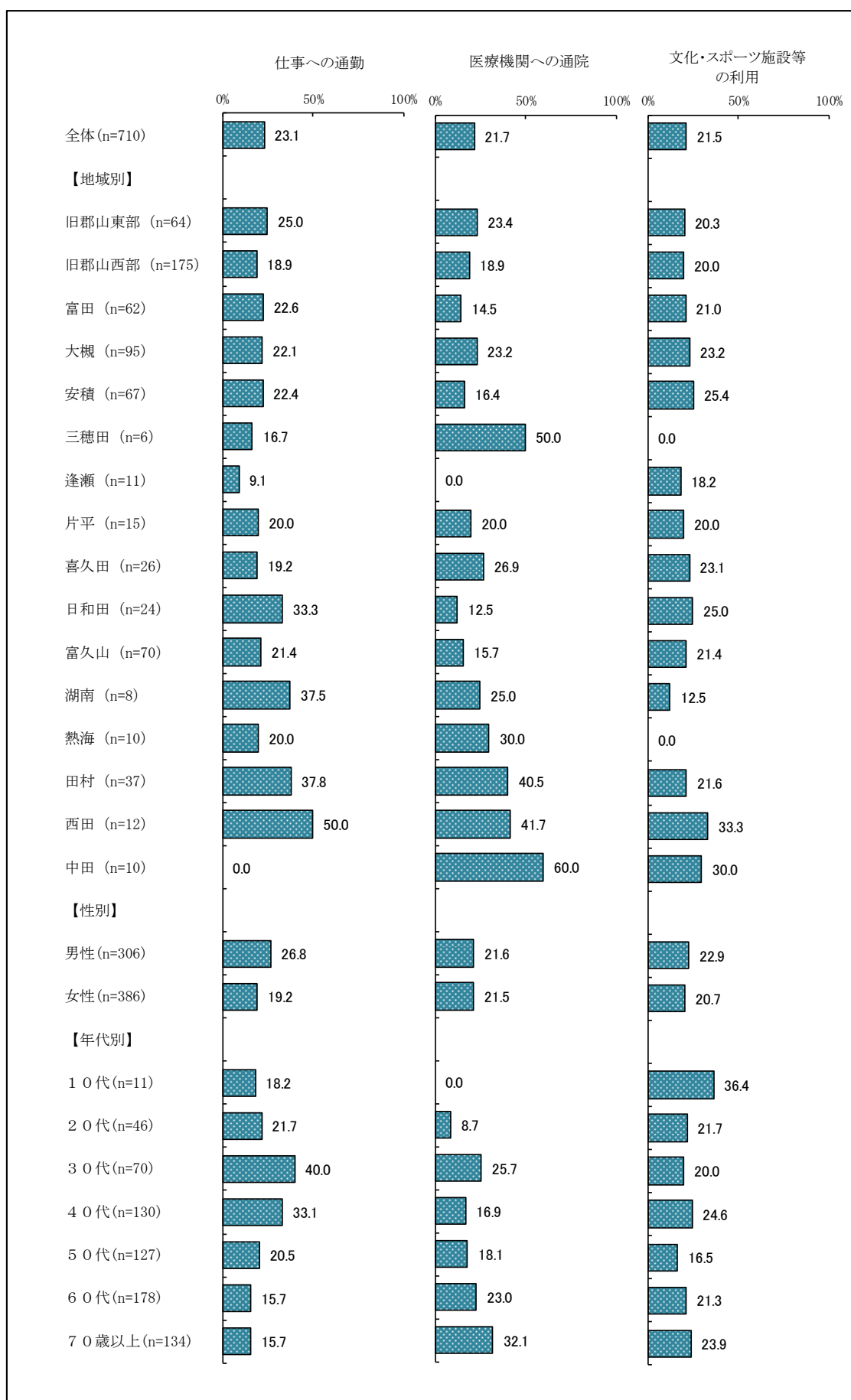
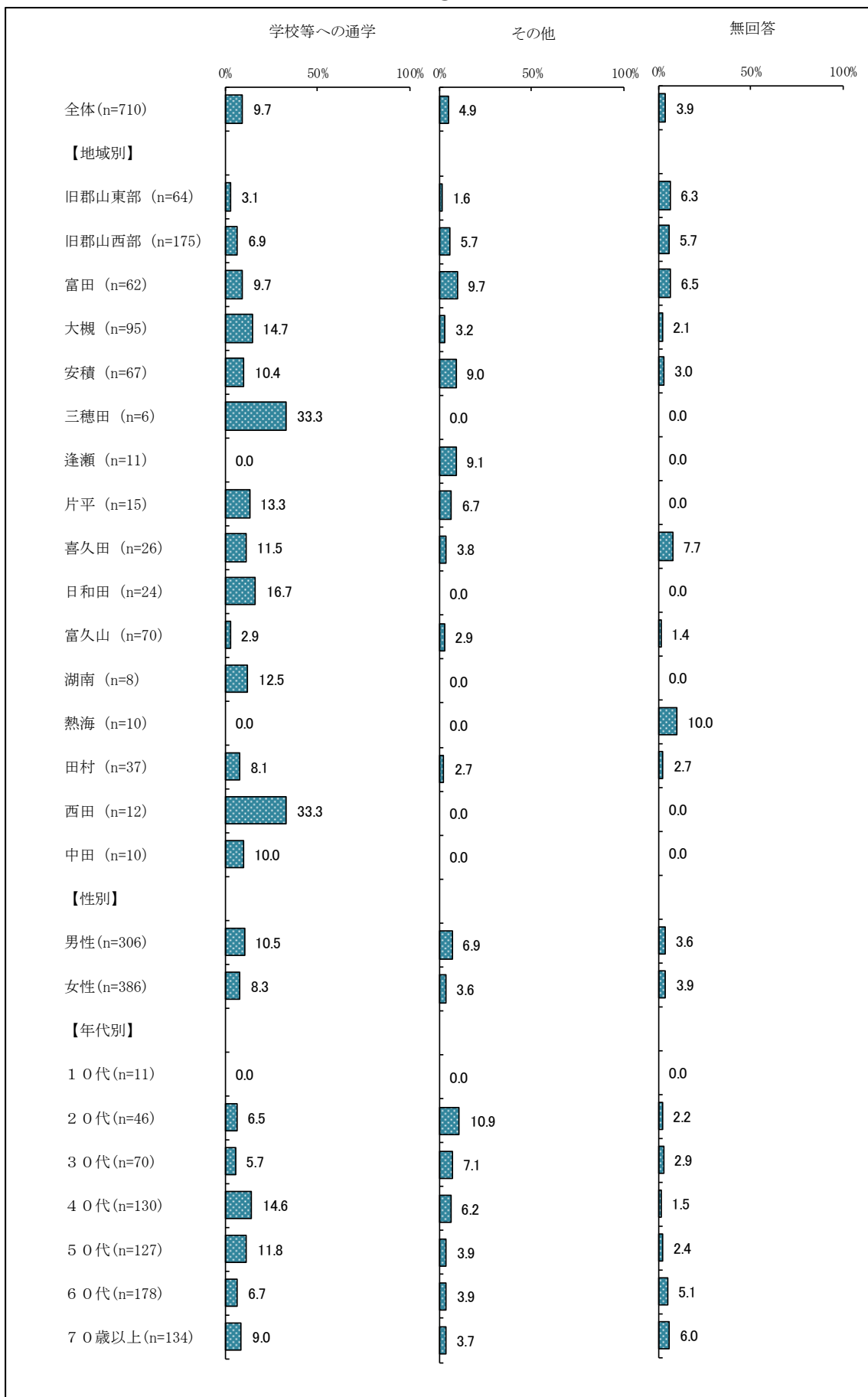
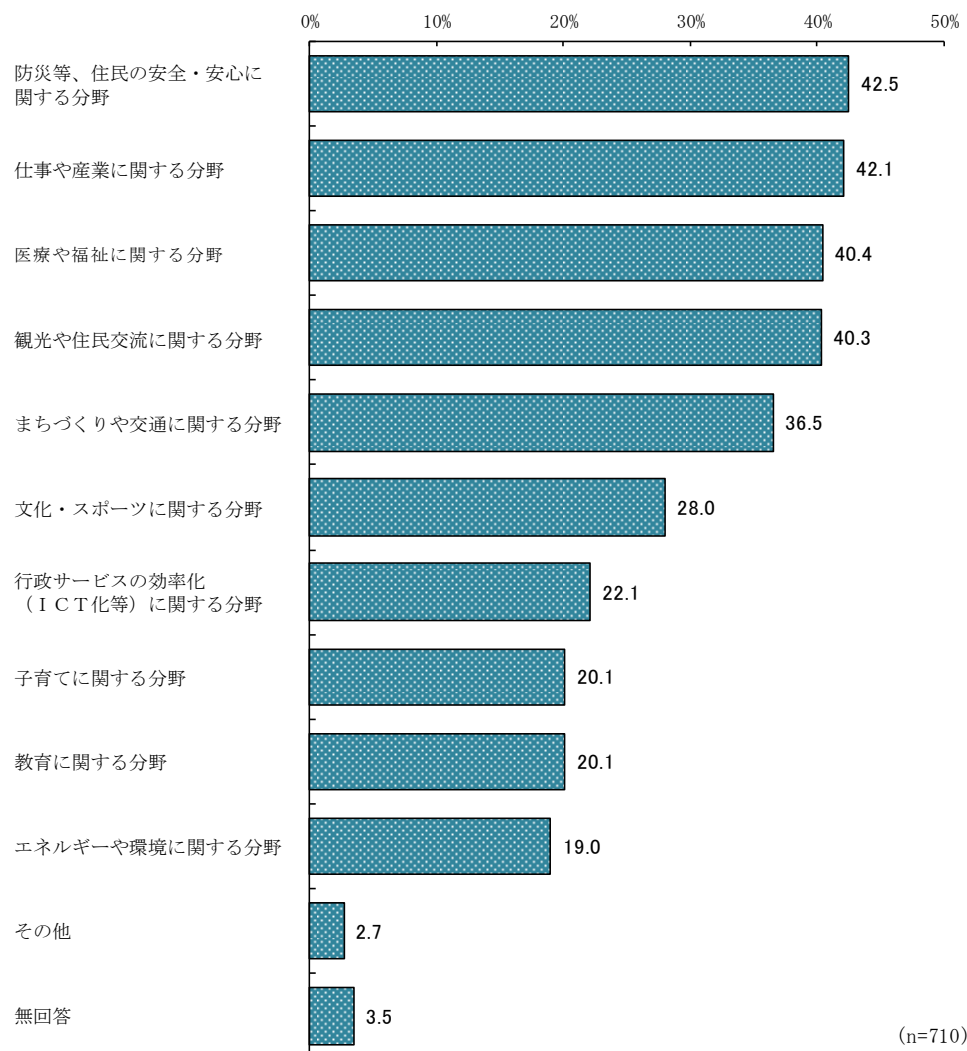


図 3-2 こおりやま広域圏と関わる場面③（地域別／性別／年代別）



（３）近隣市町村と連携を深めるべき分野について

問 今後、どのような分野で近隣市町村と連携を深めていくのがよいと考えますか？（〇はいくつでも）



『防災等、住民の安全・安心に関する分野』

での連携を深めるべきとの考えが最も多い

【全体結果】

「防災等、住民の安全・安心に関する分野」（42.5％）の割合が最も高くなっています。以下、「仕事や産業に関する分野」（42.1％）、「医療や福祉に関する分野」（40.4％）の順で続いています。

圏域の大部分が阿武隈川の流域であり、また、県中医療圏を基本とした広域医療の中心でもある本市において、防災や医療分野での連携が強く進められています。また、通勤通学や経済活動において、人、モノ、情報の往来が多いことを背景に、催しや住民交流、交通面での連携も求められています。

【属性別結果】（図 3-3 参照）

①性別

「仕事や産業に関する分野」の割合は、男性（45.1%）の方が女性（39.4%）よりもやや高くなっています。

②年代別

「防災等、住民の安全・安心に関する分野」の割合は、70 歳以上（59.7%）で最も高く、20 代（17.4%）が最も低くなっています。

図 3-3 近隣市町村と連携を深めるべき分野について①（地域別／性別／年代別）



図 3-3 近隣市町村と連携を深めるべき分野について②（地域別／性別／年代別）

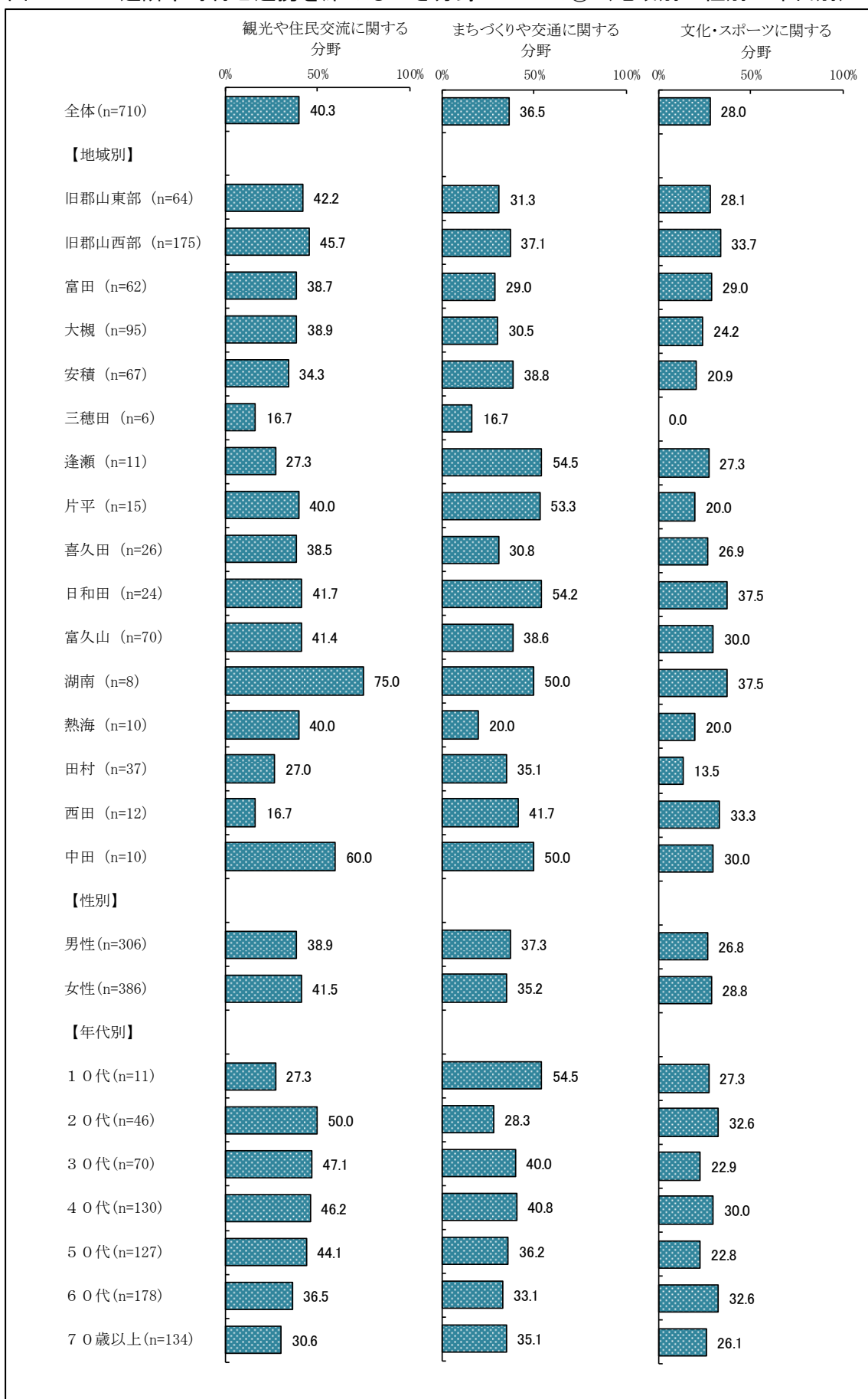


図 3-3 近隣市町村と連携を深めるべき分野について③（地域別／性別／年代別）

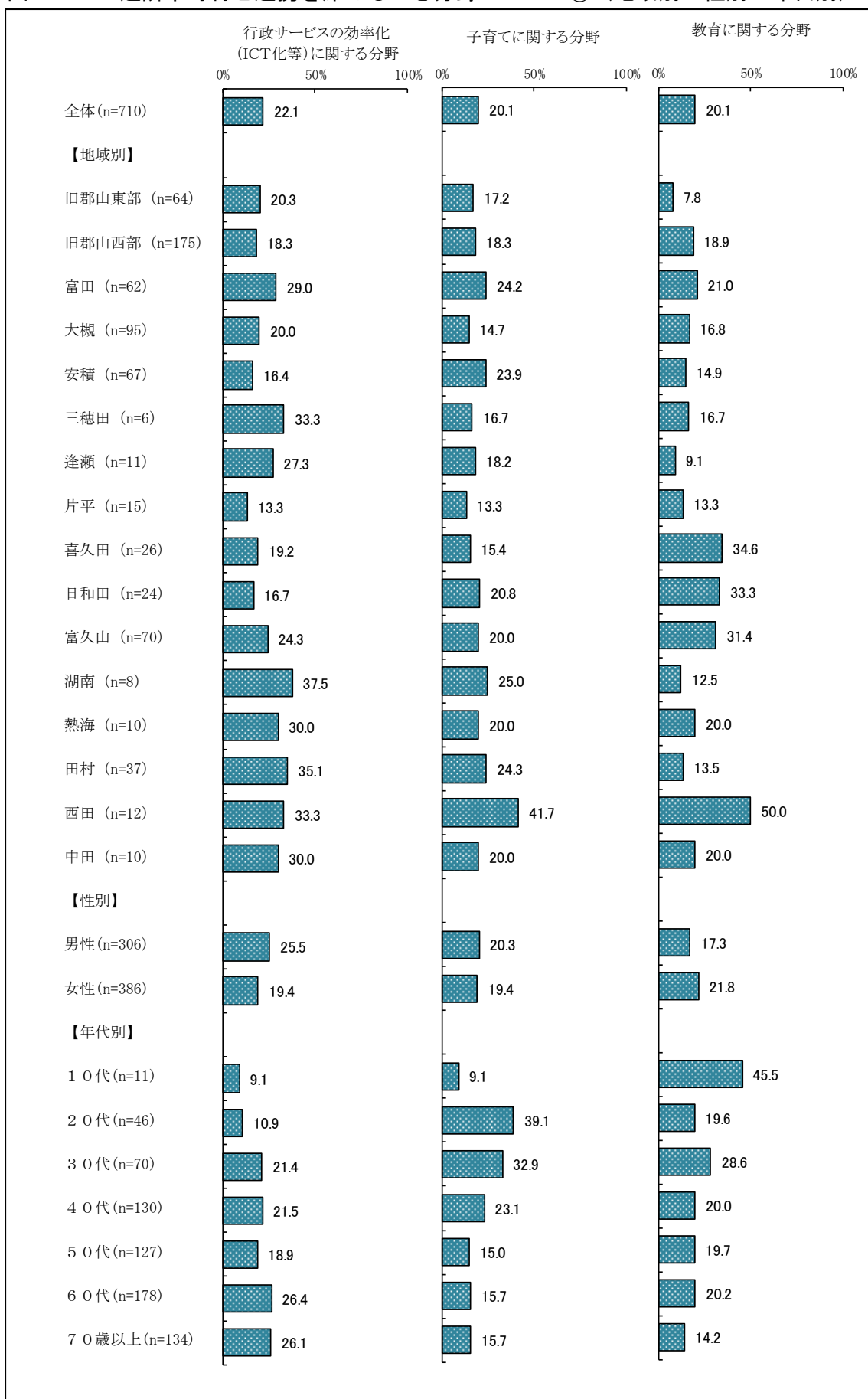


図 3-3 近隣市町村と連携を深めるべき分野について④（地域別／性別／年代別）

